

熊本県 I P M 実践指標【温州みかん】

時期	管理項目	管理ポイント
発芽期～	伝染源の除去	4月下旬に罹病葉を剪除する（そうか病）。
	適期防除	幼芽期（5mm）に薬剤を散布する（そうか病）。
開花期～ 落弁期	耕種的防除	木をゆすり花弁を離脱させる（灰色かび病）。
	効率的な防除	落弁期には同時防除剤を散布する（灰色かび病、そうか病、黒点病）。
幼果期～ 梅雨期	伝染源の除去	梅雨入り前に枯枝を剪除する（黒点病）。 発病果・葉を剪除する（そうか病・かいよう病）。
	天敵の利用	天敵微生物資材を広域で施用する（ゴマダラカミキリ）。
	シートマルチの設置	光反射シートの施用（飛翔行動攪乱：チャノキアザミマ、吸汁害低下：カミシ類、抑草）。
	害虫捕殺	成幼虫を捕殺する（ゴマダラカミキリ）。
	防除要否判断	降雨量や経過日数に基づき防除を実施する（黒点病）。
	薬剤抵抗性の発達回避	マシン油乳剤を散布する（ミカンハダニ）。
梅雨明け後	伝染源の除去	秋雨前の8月に枯枝を剪除する（黒点病の後期感染防止）。 摘果した果実は園外に処分する（褐色腐敗病・緑かび病）。
	防除要否判断	降雨量や経過日数に基づき防除を実施する（黒点病）。
収穫前	伝染源の除去	発病果は園外に処分する（緑かび病）。
収穫時	果実腐敗対策	晴天時を選んで収穫し、収穫時には果梗枝を短く切る（緑かび病）。
		果皮に傷が付かないように丁寧に作業し、予措を行う（緑かび病）。
冬期～発芽前	伝染源の除去	剪定時の罹病葉、枝の剪除（そうか病・かいよう病）。 剪定時の枯枝剪除と剪定枝の園外処分（黒点病）。
	害虫の越冬密度低下	マシン油乳剤によるカイガラムシ類やハダニ類の密度低下を図る。
通年	作業日誌記帳	各種作業の実施日、病虫害、雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の I P M に係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。
	研修会の参加	県や農協、市町村、出荷組合、N P O などが開催する I P M 研修会に参加する。
	予察情報確認	病虫害防除所の発生予察情報の活用。
	防除要否判断	黒点病：累積降水量（200～250mm） 経過日数（25～30日）
		ミカンハダニ：寄生葉率（30～40%） 寄生虫数（0.5～1頭/葉）
		ヤノキアザミマ：4月の寄生葉数 2頭未満 → 8月散布 2～15頭 → 6月散布 15頭以上 → 6月と8月
	ほ場及びその周辺の管理	通風採光に配慮した植栽密度。
		風・排水対策等の園の環境整備の実施。
		ほ場周囲の防風樹や雑草管理の実施。
	適正施肥	土壌診断による適正施肥の実施。
農薬の使用	農薬を使用する場合は、病虫害にあった方法を選び、処理量は十分な効果が得られる範囲で最小の使用量となるように努める。	
	適切な飛散（ドリフト）防止対策の実施。	
	薬剤抵抗性回避のためのローテーション散布の実施。	
	使用前にはラベルを読み、使用基準を守って使用する。 地域で使用が規制されている農薬は使用しない。	
天敵の確認	天敵の確認 ヤノキアザミマ → ヤノキアザミマ・ヤノキアザミマチ ルビロウムシ → ルビアヤドリコバチ イカリアザミマ → ベタリアアザミマ ミカンゴサジラミ → シルバストリコバチ ミカンハダニ → ハナカシ類、カブリダニ類等	